

琉球大学学術リポジトリ

[巻頭言] 研究に独創を

メタデータ	言語: 出版者: 沖縄農業研究会 公開日: 2009-01-29 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 泉, 裕巳 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/0002015449

巻 頭 言

— 研究に独創を —

会長 泉 裕 巳

技術集約的農業の高度化が強く要請されている昨今、その中核を担うべき研究者・技術者に課せられた役割は従前にも増して重いものがあり、その具体化を目指して創意工夫をこらし、より高い生産技術を確立することがハイテク時代の農業関係者に託された大きな課題であろう。

沖縄農業の現状は、種々の社会的要因はあるにせよ基幹作物といわれてきたサトウキビの低迷、パイナップルの不振など多くの困難な問題をかかえてかなり厳しいものがあり、現状を打開し21世紀に向けて明るい展望を切り開くためには何をどうすることが必要か、今まさに沖縄農業のあり方が問われている。

沖縄県が振興開発構想の中で取り上げている国際都市形成構想や種々の研究所設置構想、また各地域が熱心に取り組んでいる「シマおこし」活動にしても、基本はその地場で生み出す何かがあれば構想も絵に描いた餅になり活性化は望めない。

これといった資源に乏しい沖縄では、亜熱帯の北限である自然環境・島しょ環境などの気候風土が唯一の資源であり、これらを活かすものは生物生産において他にはないのではなかろうか。今こそ、新たな技術革新を期して従来の研究蓄積を再検証し、科学的根拠に立脚した新しい生産技術を構築する時期に来ていると思う。

世はまさにインターネットの時代に入り、種々の生産技術に関する情報を居ながらにして収集・分析し、技術の再構築をすることが可能になってきた。本誌の特集記事「沖縄農業における情報化の現状と課題」にあるように、情報技術は新しい可能性を提供しつつあるが、この文明の利器も情報の発信が無ければ全く役に立たない。情報発信こそが研究者の役割ではないかと思う。やがて農家がより詳細な情報を求める時代が来るだろうが、その時に躊躇することなく発信できる科学的情報の提供に備えて、たゆまなく研究成果を積み重ねる努力が何よりも大切である。

本研究会は、大学・農業試験場・普及センターをはじめ、行政・企業など県内の産・官・学の大半の関係者が参加しており、農業生産に関する情報交換・討議の場として格好の組織ではあるが十分に活用されているとは言い難い。科学の研究にとって大事なことは創造性であり、個人の独創である。研究会活動の一環として、個人或いはグループで気楽に集まり、自由な意見交換の中から沖縄農業の当面する課題の解決に向けて独創的な生産技術が創造され、情報発信されることを期待したい。